

学校名

熊本県立八代工業高等学校

学校所在地

熊本県八代市大福寺町473

学校の全景写真**クラブ名**

建築班

クラブの活動形態

高等学校のみで活動

部員人数

高校生6名

クラブの活動曜日

火曜日、木曜日

クラブを象徴する写真**活動内容**

私達「建築班」は、インテリア科3年の課題研究の班です。3年生6名で様々な「模型製作」に取り組んでいます。鉄道模型コンテストには、2年前の先輩方から連続して参加をしています。班の活動コンセプトとして、「身近な材料を使う」、「見た人が小さな幸せを感じる」ということを掲げ、歴代の先輩方の作品を越えられるよう、日々、努力をしています。

今年度は、班員以外に3年生1名、2年生3名の協力を得ながら、製作を進めました。

一言アピール

班員、顧問（教師）で意見を出し合い、協力し、楽しくものづくりをしています。

作品名

Reconstruction ～復興人生ゲーム～

作品の全景写真



製作にかかった期間

6ヶ月

製作にかかった費用

7,000円

製作に関わった人数

10人（3年生7人、2年生3人）

作品のコンセプト

今年、熊本地震（平成28年）から5年、熊本豪雨（令和2年）から1年という節目の年です。また、新型コロナウイルスの影響も落ち着きを見せず、熊本でもたくさんのイベントが開催されなかったり、我慢をしたりすることが続きました。地元八代の祭りである「妙見祭（ユネスコ無形文化遺産）」等も中止になりました。

熊本県全体として「創造的復興」を進めている中で、私たち高校生（課題研究建築班）ができることはないか班で議論をしました。その中で、私たちの活動テーマの1つである「見た人が小さな幸せを感じる模型作り」の視点から、熊本県の良さをアピールする作品を鉄道模型の中で表現してみてもどうかということになりました。

今回選んだ地域は、地元である「八代市」と「熊本市、人吉市」です。被災した地域の復興には、県内外の人たちに興味関心を持ち続けてもらうことが必要であり、まずは知ってもらうことが熊本を元気にするきっかけになると考えました。

そこで、まず「その地域の良さ」を私たちが再確認することにしました。インターネット等を使って特産品や伝統工芸品、名所を調べていく中で、大きな被害を受けた地域にはその地域のもつエネルギー（地域の良さ）があり、それが「創造的復興」に不可欠なものだと感じました。今回の模型製作では、「3市を知ること＝3市を巡る旅」ととらえ、それを「すごろく」に見立てて表現しました。そのため、今回の模型ではあえて全体で統一したスケールを使わず、それぞれの特産品や建築物が目立つような大きさを表現しています。

被災からの復興と、新型コロナウイルスが収束し今までどおりたくさんの人と交流したり、様々なイベントが開催される日が1日も早く来て欲しいという思いを作品に込めました。

参考にした路線・駅またはイメージした場所

今回の模型製作でイメージした場所は「熊本市」、「八代市」、「人吉市」です。それぞれの地域の建築物や特産品等を調べ、再現しました。

地域	製作物
熊本市	熊本城、おばけの金太、からしレンコン、いきなり団子、特急あそぼーい
八代市	金波楼、妙見祭、亀蛇、777 段、彦一コマ、おきん女人形、高田焼、日奈久竹細工
人吉市	球磨川、きじ馬、花手箱、がら、川下り、ラフティング、青井阿蘇神社、SL 人吉

苦勞したこと

(1) 妙見祭（ユネスコ無形文化遺産）の笠鉾

立体物の中でも、特に時間がかかったのは、笠鉾の製作でした。笠鉾7体の上部には、それぞれ人物や植物といった異なるものが載っており、リアリティを持たせながら再現することが難しかったです。紙粘土で形作り、絵の具で着色しましたが、何度も作り直し、綺麗に仕上げるためにはどのようにすべきか試行錯誤の連続でした。



(2) 各地域別に置かれたマス目（平面、立体）

次に苦勞したところは、「マスのデザイン」です。コンセプトを「復興人生ゲーム」としており、熊本で起きた地震や豪雨といった災害から少しでも早く元に戻ってほしいと考え、各地域にある伝統工芸品や方言をデザインに取り入れ、各地域をPRすることにしました。

例えば、熊本県民の中でしか意味が伝わらないと言われている「あとぜき」や、人吉の伝統工芸品「きじ馬」、「花手箱」、八代の「彦一コマ」、「おきんじょ人形」、熊本市の「おばけの金田」などをマス目（木の枝を輪切りにしたもの）に描いたり、立体を製作したりしました。

平面のマス目は、長径3cm程度のものであり、細かなデザインを表現することが難しかったです。製作工程は以下のようにしました。

平面のマス目の製作工程

- ①各地域の伝統品などを、資料を基にトレースする。コピーすると時間短縮になりますが、手書きの柔らかな雰囲気を出すために、あえてトレースしました。
- ②トレースした原図を、マス目の大きさに合わせて縮小コピーする
- ③印刷したものを着色し、マス目に貼りつけて完成。

この作業の中で一番苦勞したのが、①の工程です。単に書き写すのではなく、細かな模様も丁寧にトレースしたため、集中力を必要としました。また、元となる画像の線が明瞭でない部分もあったため、その時はほかの画像（資料）を参考にしてトレースしました。



自作や日用品から流用したアイデア

(1) 紙製のストロー（笠鉾、金波楼の瓦屋根）

笠鉾の屋根の曲線を出すために、紙製のストローを使用しました。紙製のストローを縦半分にし、それを屋根の寸法に合わせて切り出すことで、屋根の反りを表現することが出来ました。また、縦半分にしたストローを短く切って重ねることで、金波楼の瓦屋根を表現しました。金波楼は創業100年を超えた木造3階建の宿で、2009年に国・登録有形文化財（建築物）に認定されました。



(2) ほうき（茅葺屋根、樹木）

ほうきを使って、青井阿蘇神社の茅葺屋根を表現しました。青井阿蘇神社は、人吉では親しみをこめて「青井さん」と呼ばれていて、2008年に国宝に指定されています。

また、短く切ったほうきの片方をねじり、反対側を広げることで樹木を表現しました。



(3) つまようじ

長さをそろえて切ったつまようじを並べて、橋の通路部分を製作しました。この橋の構造は、球磨川にかかる橋をモデルとし、通路部分は改札口をイメージしました。



ここ、すごいこだわりました

(1) 妙見祭（ユネスコ無形文化遺産）の笠鉾

笠鉾は、1枚1枚の屋根に隙間が出ないように、大きさ、角度を調整して製作しました。祭りの賑わいを演出するため、人物も多く配置しました。



(2) 球磨川（日本三大急流）

球磨川渓谷の雄大さや荒々しさが伝わるように表現しました。



(3) 阿蘇山ロープウェイの中の人物

阿蘇山ロープウェイの中に、人物模型を入れてリアリティを出しました。非常に小さな模型のため、製作に時間がかかりました。



(4) 金波楼の断面模型

木造3階建ての断面模型では、各階をつなぐ階段や各部屋の家具など、細かな部分にもこだわりをもって製作しました。各部屋は、宿での様々な場面をイメージして人物を配置しました。



(5) 天井画風紹介板

本校インテリア科では、地域貢献活動の1つとして「天井画の製作」があります。今回の鉄道模型の中では、3市の「市木・市花・市鳥」を天井画風に表現しました。



実はここ失敗しました

(1) 青井阿蘇神社

参考となる具体的な図面や現場で測量する時間もなく、写真だけを頼りに製作したため柱等に細かな加工ミスがありましたが、ほどよく収めることができました。

(2) マス目の微妙なズレ





八代市のエリアに配置すべき「高田焼」のマス目を、間違っ人吉市のエリアに配置していたことに、接着後に気が付きました。接着直前の確認不足と思い込みが原因でした。





最後にここを紹介したい

(1) 方言のマス目の配置

6つの方言は、模型の中の状況に合わせて配置しました。内容は以下のとおりです。

方言	配置場所	意味
きなっせ	スタート地点 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おいで～」という意味です。 ・「すごろく」を「一緒にしよう」という意味で、スタート地点を表しています。 ・人生ゲームのコマに見立てて、「特急あそぼーい」と「SL人吉」も同じ場所に配置しています。そのため、マスとマスの間は「レール」に見立てたもので表現しています。
よかばい	「金波楼」の前 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ここは良い所」という意味です。 ・人吉エリアを通過し、八代市に入った所で、旅の疲れを「金波楼の温泉で取りましょう」というお誘いです。
たまがった	777段 	<ul style="list-style-type: none"> ・「びっくりした」という意味です。 ・階段の多さ、登った時の体力消耗、頂上からの眺望の良さ（八代市が見渡せます）といった具合に「驚きの連続」です。
すんまっせん		<ul style="list-style-type: none"> ・「すみません」という意味です。 ・この777段の模型の中で、「密」になっていることに対して「ごめんなさい」という設定です。

<p>ばりうまか</p>	<p>「からしレンコン」と「いきなり団子」の間</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「とてもおいしい」という意味です。 ・熊本の名物である「からしレンコン」と「いきなり団子」は、一度は召し上がってほしいです。
<p>あとぜき</p>	<p>ゴール地点</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ドアなどを開けたら閉める」という意味です。 ・「閉める→終わる」ととらえ、このすぐろくのゴール地点を表しています。

(2) 隠れきじ馬を配置

人吉の伝統工芸品である「きじ馬」は、模型内に大1、小1があります。小1はどこかに配置していますので、探してください。



編集後記

今回の模型製作をとおして、皆で1つの作品を完成させる楽しさを学びました。製作過程では、なかなか意見がまとまらなかったり、イメージするものを再現できなかったりと、壁にぶつかることの連続でしたが、一人ひとりの創意工夫と試行錯誤、班内での意見交換や協同作業を繰り返すことで課題を乗り越えていくことができました。

鉄道模型コンテストへの参加だけでなく、ミニチュア製作自体が初めてで、様々な苦勞がありました。手で接着できるほど大きくないので、爪楊枝を使ってボンドを付け、ピンセットで部材同士をつなげるという細かな作業がほとんどでした。

模型製作をする前に昨年度の先輩の作品を見た時は、「ただただ凄い」という思いだけでしたが、実際に模型製作の苦勞を体験することで、改めて先輩の作品の「内容の凄さ」を感じるようになりました。

被災から節目となる年に、改めて「熊本の良さ」を知ることができました。見た人が少しでも「小さな幸せ」を感じ、今後の活力につながるような模型になることを願って製作しました。